

I - 2 年代別集計（一般県民）

表 I-2 一般県民の年代別回答者数（人）

全体	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70 歳以上	無回答
1,233	32	164	223	230	310	246	28

I-2-1 「どのような大人になってほしいか」

一般県民による『どのような大人になってほしいか』についての回答結果を年代別で比較したところ、回答の割合が高かった項目は、20 歳代では「人を思いやる心をもっている」（71.9%）、「社会のルールやマナーを守る」（62.5%）、「困難を乗り越えることができる」（43.8%）、30 歳代では「人を思いやる心をもっている」（79.3%）、「困難を乗り越えることができる」（56.1%）、「社会のルールやマナーを守る」（56.1%）、40 歳代では「人を思いやる心をもっている」（73.5%）、「困難を乗り越えることができる」（61.0%）、「社会のルールやマナーを守る」（59.6%）、50 歳代では「社会のルールやマナーを守る」（68.7%）、「人を思いやる心をもっている」（64.3%）、「困難を乗り越えることができる」（51.3%）、60 歳代では「人を思いやる心をもっている」（68.7%）、「社会のルールやマナーを守る」（62.6%）、「健康なからだや体力を備えている」（44.8%）、70 歳以上では「人を思いやる心をもっている」（62.6%）、「社会のルールやマナーを守る」（62.2%）、「困難を乗り越えることができる」（48.8%）であった。（図 I-100, 101 参照）

図 I-100 どのような大人になってほしいか ①

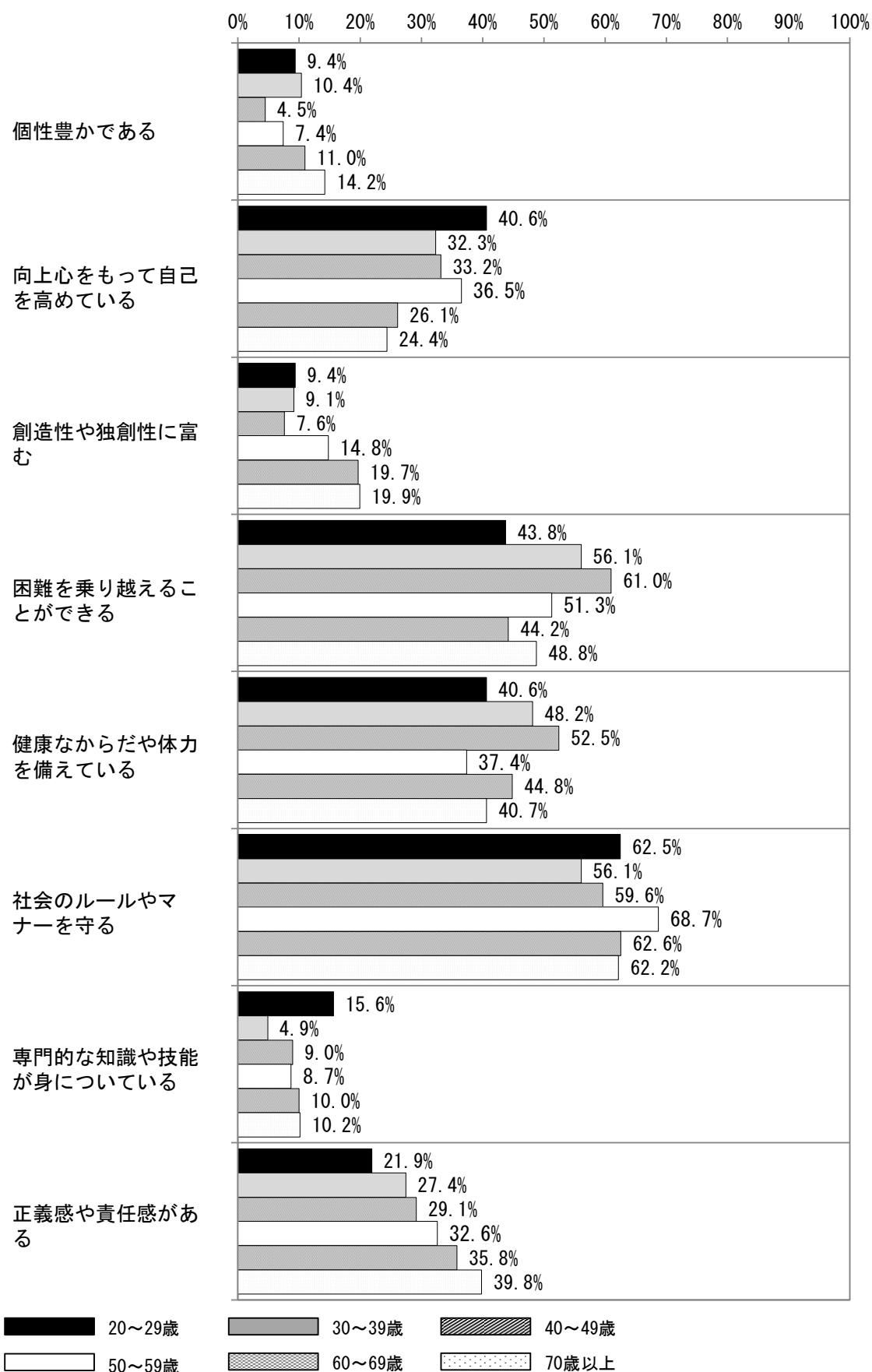
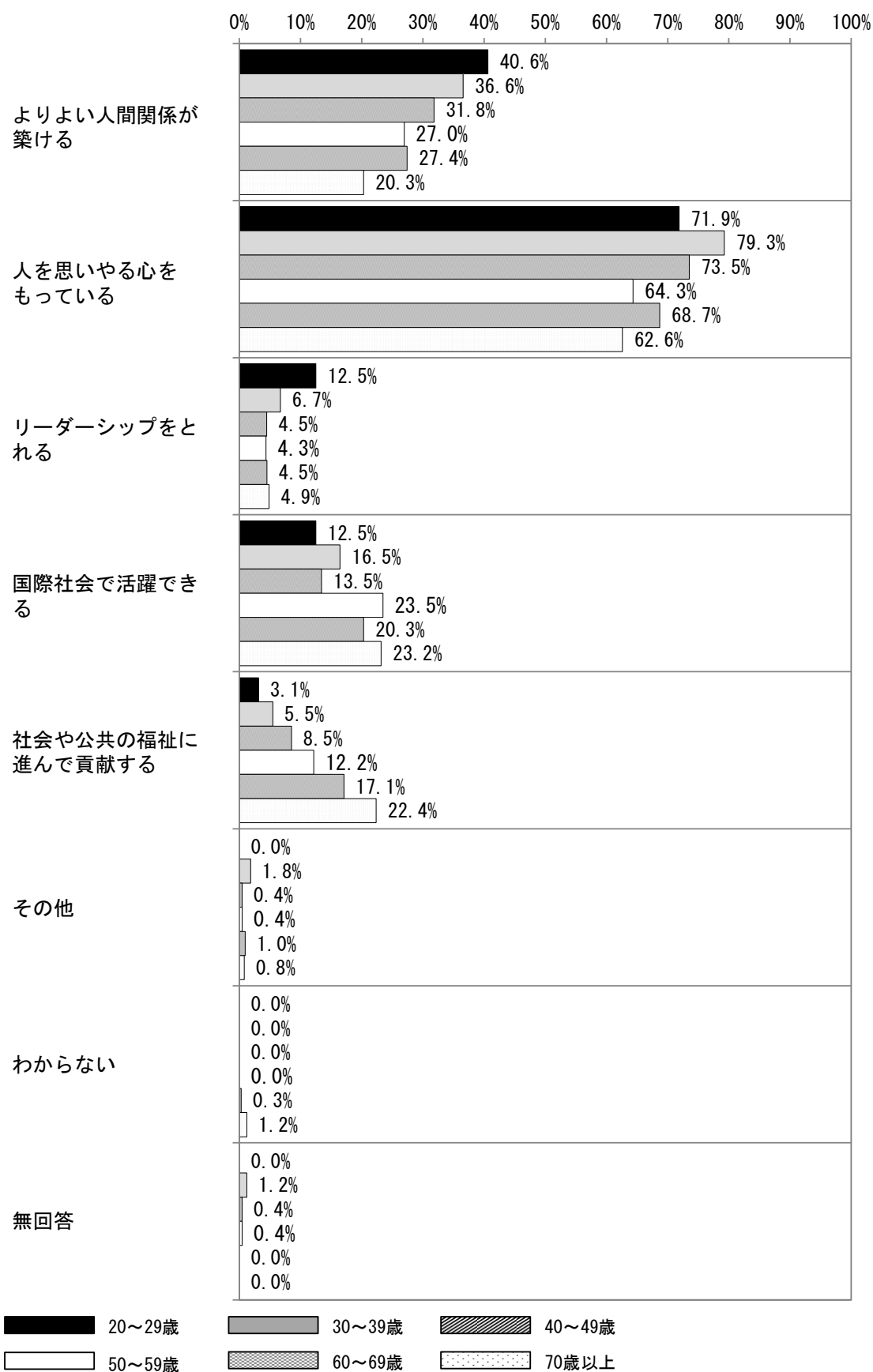


図 I-101 どのような大人になってほしいか ②



I-2-2 「学校の役割・家庭の役割」

一般県民に対して、それぞれの項目が『学校の役割であるか、家庭の役割であるか』を聞き、回答結果を年代別で比較した。

「主として家庭」と「どちらかという和家庭」との回答の合計の割合が高かった項目は、20歳代では、「基本的な生活習慣」(100.0%)、「社会のルールやマナー」(56.2%)、「人を思いやる心」(53.1%)、30歳代では、「基本的な生活習慣」(94.6%)、「人を思いやる心」(76.8%)、「社会のルールやマナー」(69.5%)、40歳代では、「基本的な生活習慣」(97.3%)、「人を思いやる心」(86.1%)、「社会のルールやマナー」(83.9%)、50歳代では、「基本的な生活習慣」(99.2%)、「人を思いやる心」(86.6%)、「社会のルールやマナー」(80.8%)、60歳代では、「基本的な生活習慣」(96.7%)、「人を思いやる心」(87.4%)、「社会のルールやマナー」(69.1%)、70歳以上では、「基本的な生活習慣」(94.8%)、「人を思いやる心」(82.5%)、「社会のルールやマナー」(70.3%)であった。

「主として学校」と「どちらかという和学校」との回答の合計の割合が高かった項目は、20歳代では「友達をつくり、人間関係を築く力」(90.7%)、「健康に関する知識や体力・運動能力」(84.4%)、「受験に必要な学力」(81.2%)であり、30歳代では「友達をつくり、人間関係を築く力」(83.5%)、「受験に必要な学力」(78.7%)、「学ぶ意欲や学習の習慣」(75.6%)、40歳代では「友達をつくり、人間関係を築く力」(83.8%)、「受験に必要な学力」(79.8%)、「英会話など実践的な語学力」(74.0%)、50歳代では「将来の職業に役立つ知識・技能」(86.1%)、「受験に必要な学力」(85.6%)、「友達をつくり、人間関係を築く力」(83.5%)、60歳代では「将来の職業に役立つ知識・技能」(87.1%)、「受験に必要な学力」(84.9%)、「英会話など実践的な語学力」(80.0%)、70歳以上では「将来の職業に役立つ知識・技能」(86.9%)、「受験に必要な学力」(85.8%)、「友達をつくり、人間関係を築く力」(77.2%)、「英会話など実践的な語学力」(80.9%)であった。(図I-102～114参照)

図 I-102 基本的な生活習慣

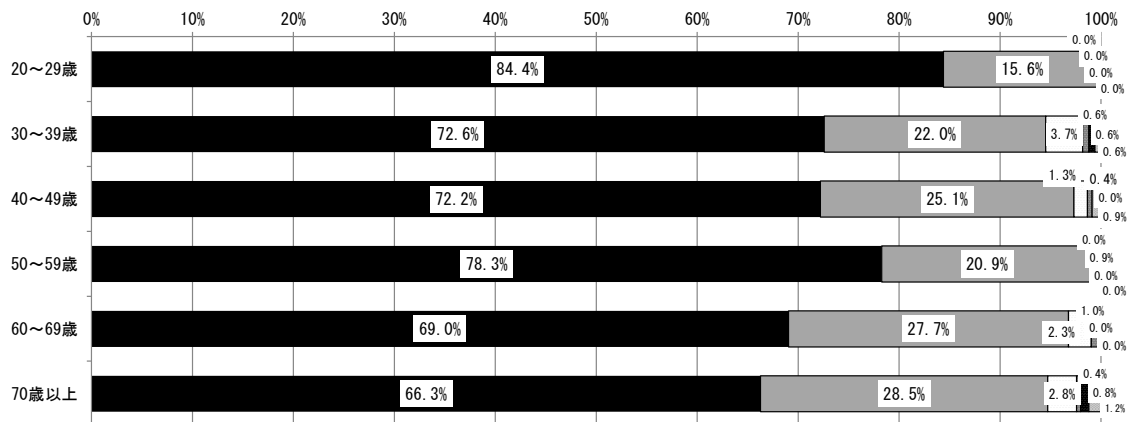
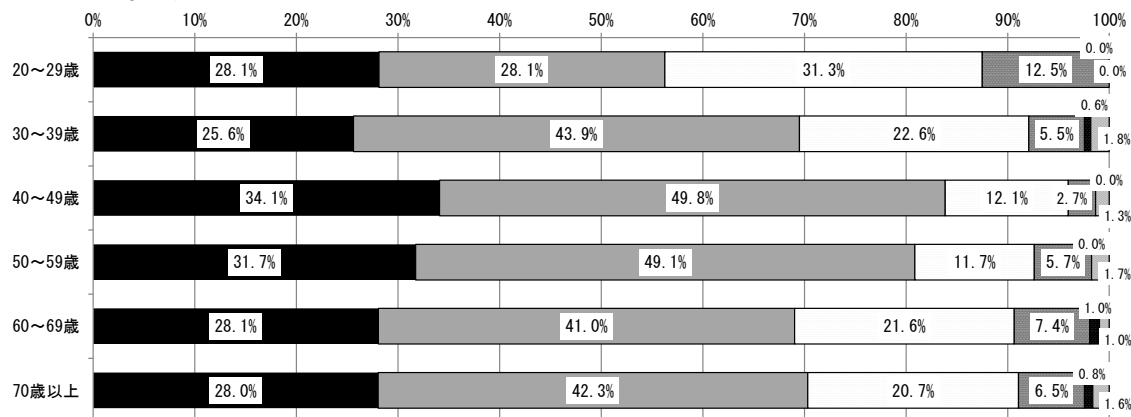


図 I-103 社会のルールやマナー



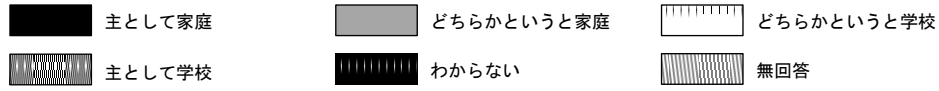


図 I-104 人を思いやる心

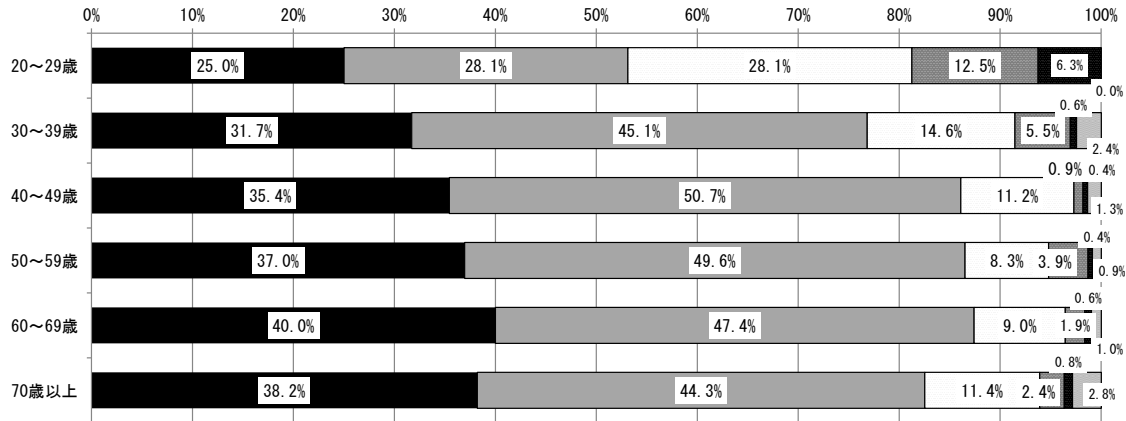


図 I-105 学ぶ意欲や学習の習慣

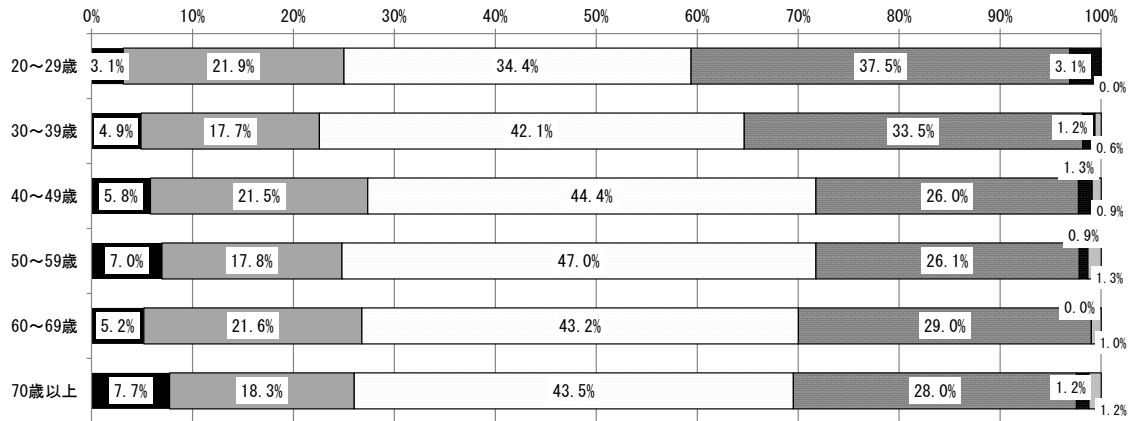


図 I-106 受験に必要な学力

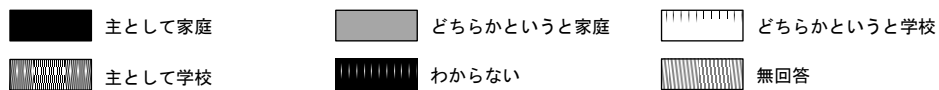
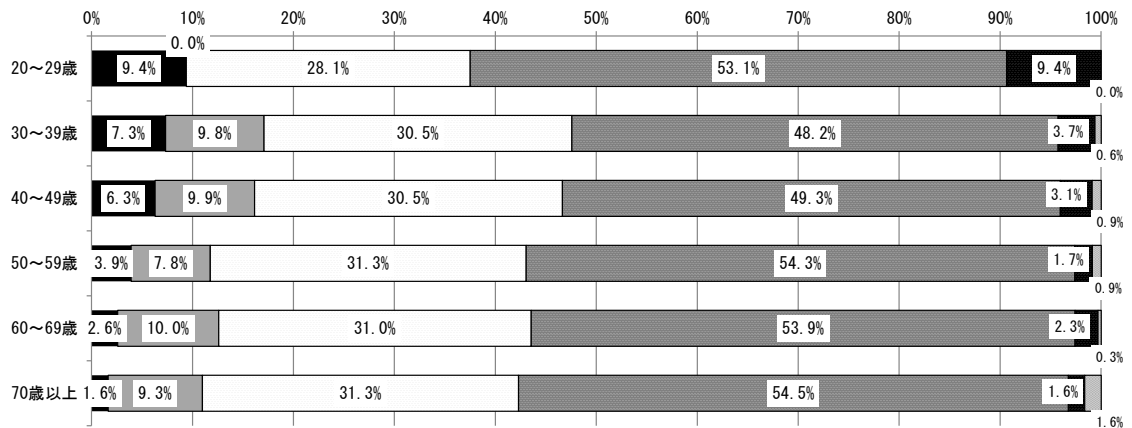


図 I-107 将来や進路について考える力

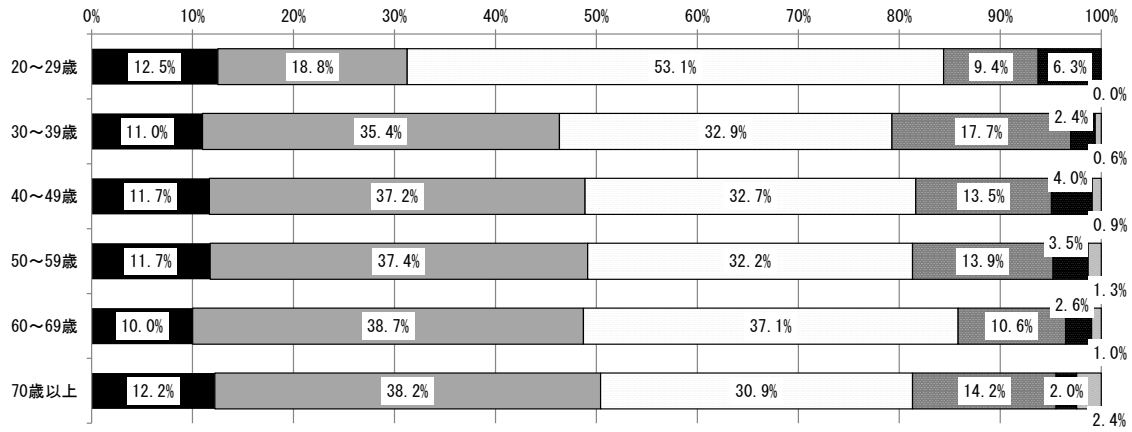


図 I-108 友達をつくり、人間関係を築く力

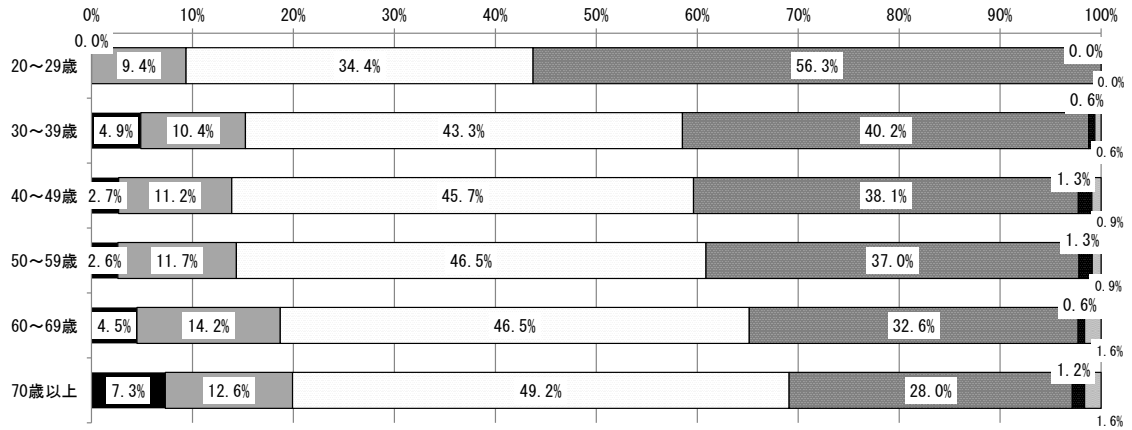
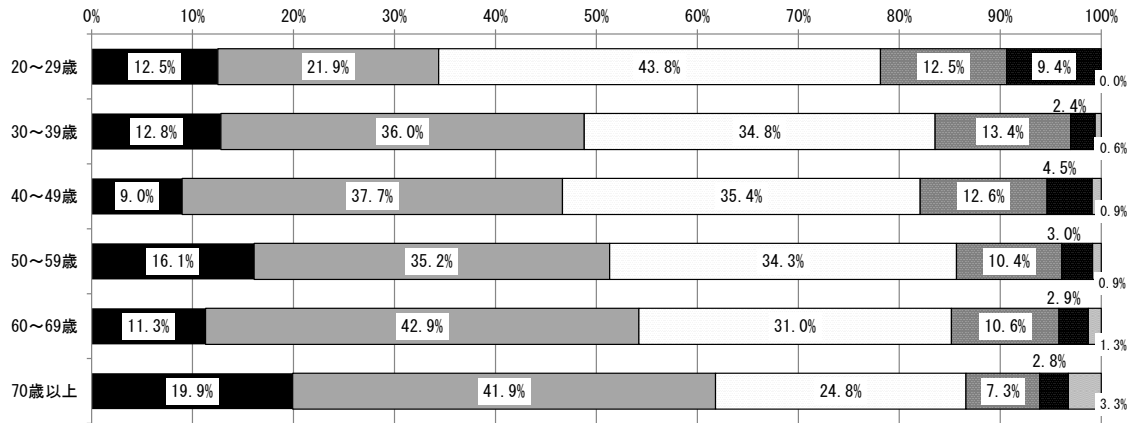


図 I-109 ものごとをやりとげるねばり強さ



主として家庭
 どちらかという和家庭
 どちらかという学校
 主として学校
 わからない
 無回答

図 I-110 音楽や美術など芸術的な感性や能力

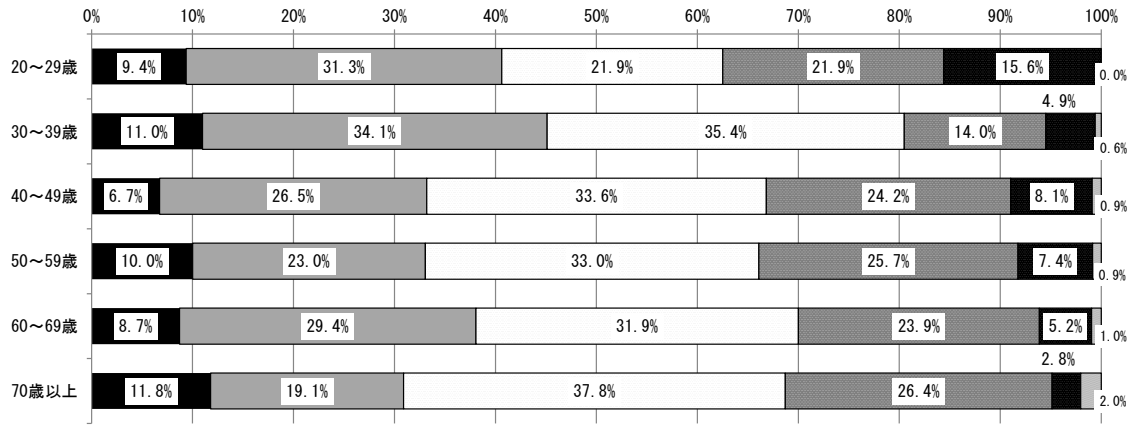


図 I-111 英会話など実践的な語学力

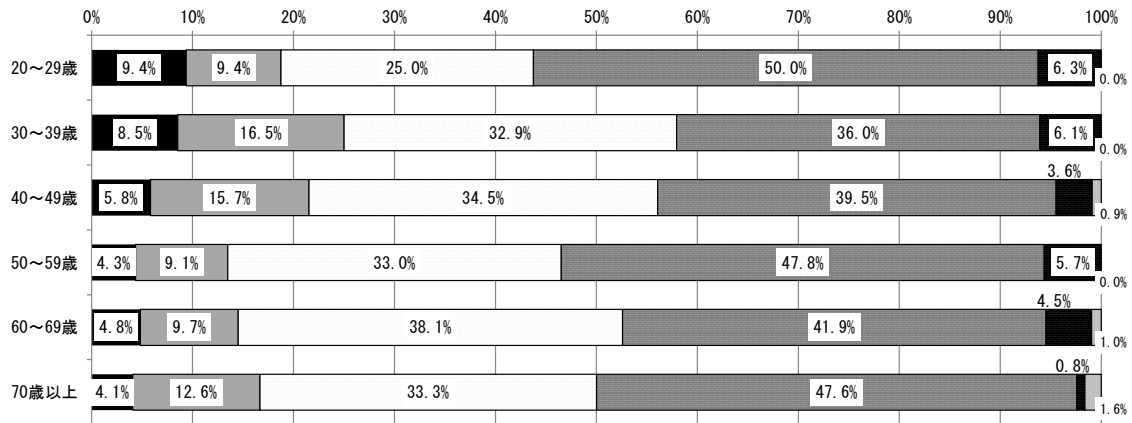
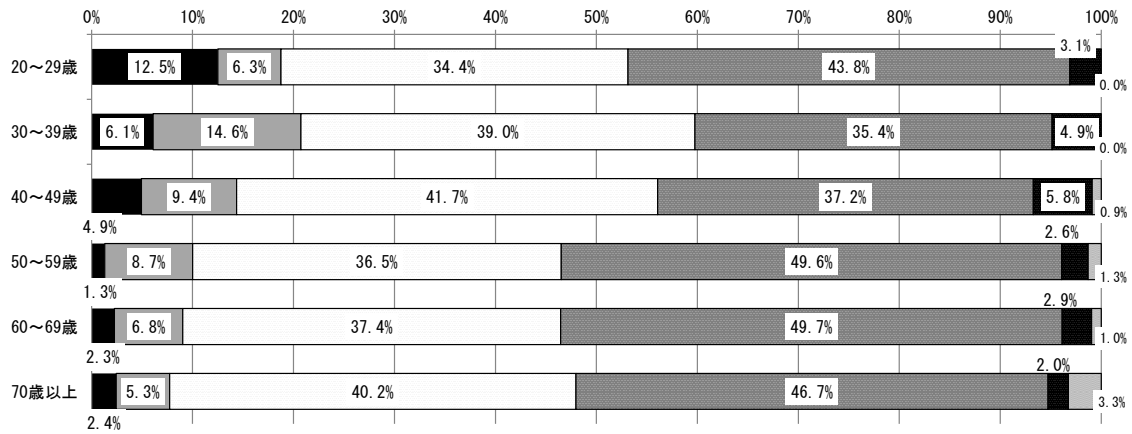


図 I-112 将来の職業に役立つ知識・技能



主として家庭
 どちらかという和家庭
 どちらかという和学校

主として学校
 わからない
 無回答

図 I-113 知識や感性・情操などを育む読書の習慣

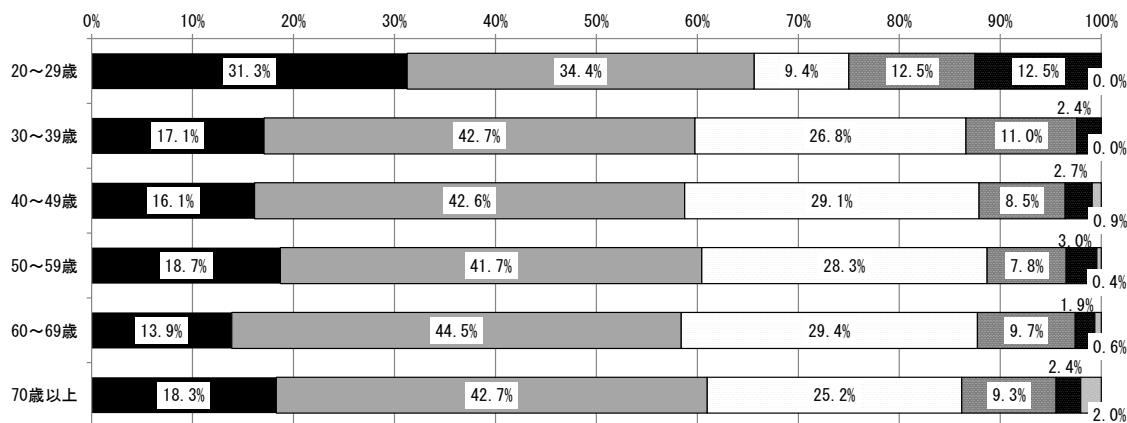
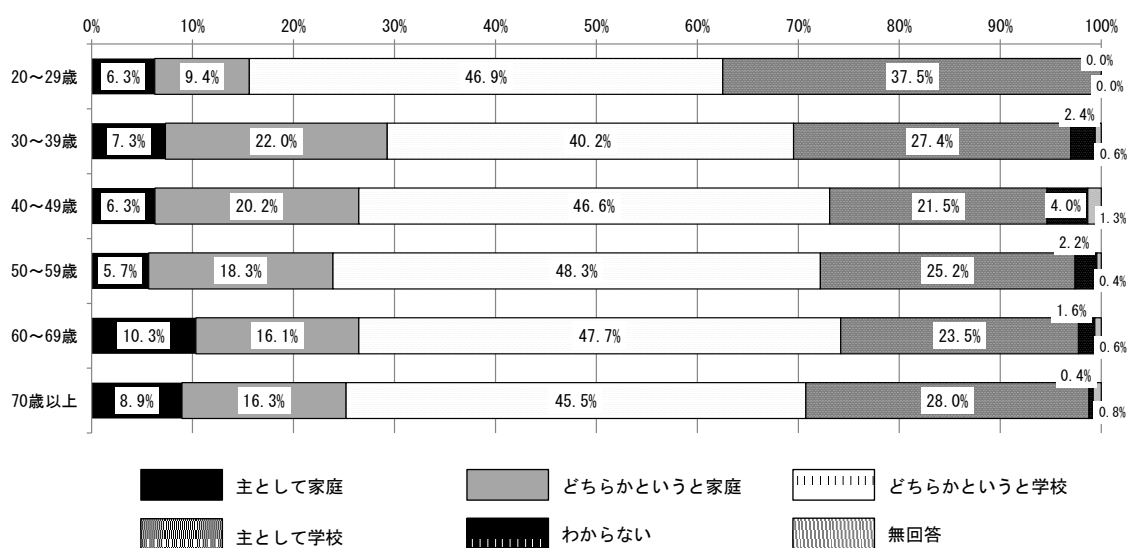


図 I-114 健康に関する知識や体力・運動能力



I-2-3 「教科やその他の活動の重点」

一般県民による『教科やその他の活動の重点』についての回答結果を年代別で比較したところ、回答の割合が高かった項目は、20歳代では「『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育」(71.9%)、「コミュニケーション能力を高める英語教育」(56.3%)、「健やかな心と体を育む教育」(40.6%)であり、30歳代では「『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育」(61.6%)、「コミュニケーション能力を高める英語教育」(51.8%)、「豊かな心を育む道徳教育」(48.2%)、40歳代では「『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育」(65.9%)、「コミュニケーション能力を高める英語教育」(51.6%)、「豊かな心を育む道徳教育」(45.3%)、50歳代では「『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育」(64.3%)、「コミュニケーション能力を高める英語教育」(49.1%)、「豊かな心を育む道徳教育」(49.1%)、60歳代では「『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育」(69.7%)、「豊かな心を育む道徳教育」(53.2%)、「健やかな心と体を育む教育」(47.4%)、70歳以上では「『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育」(74.4%)、「豊かな心を育む道徳教育」(60.2%)、「健やかな心と体を育む教育」(49.2%)であった。(図 I-115~116 参照)

図 I-115 教科やその他の活動の重点 ①

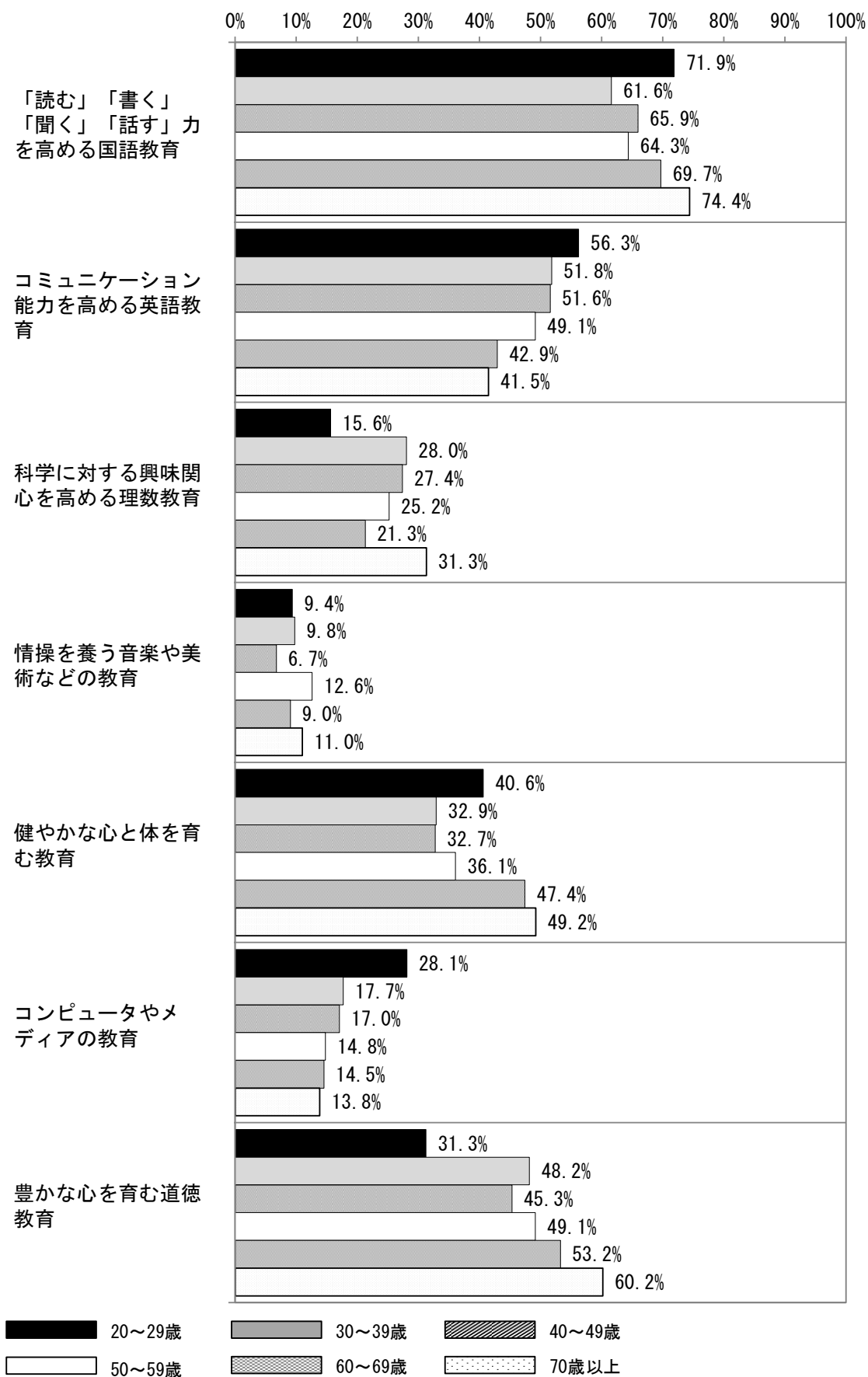
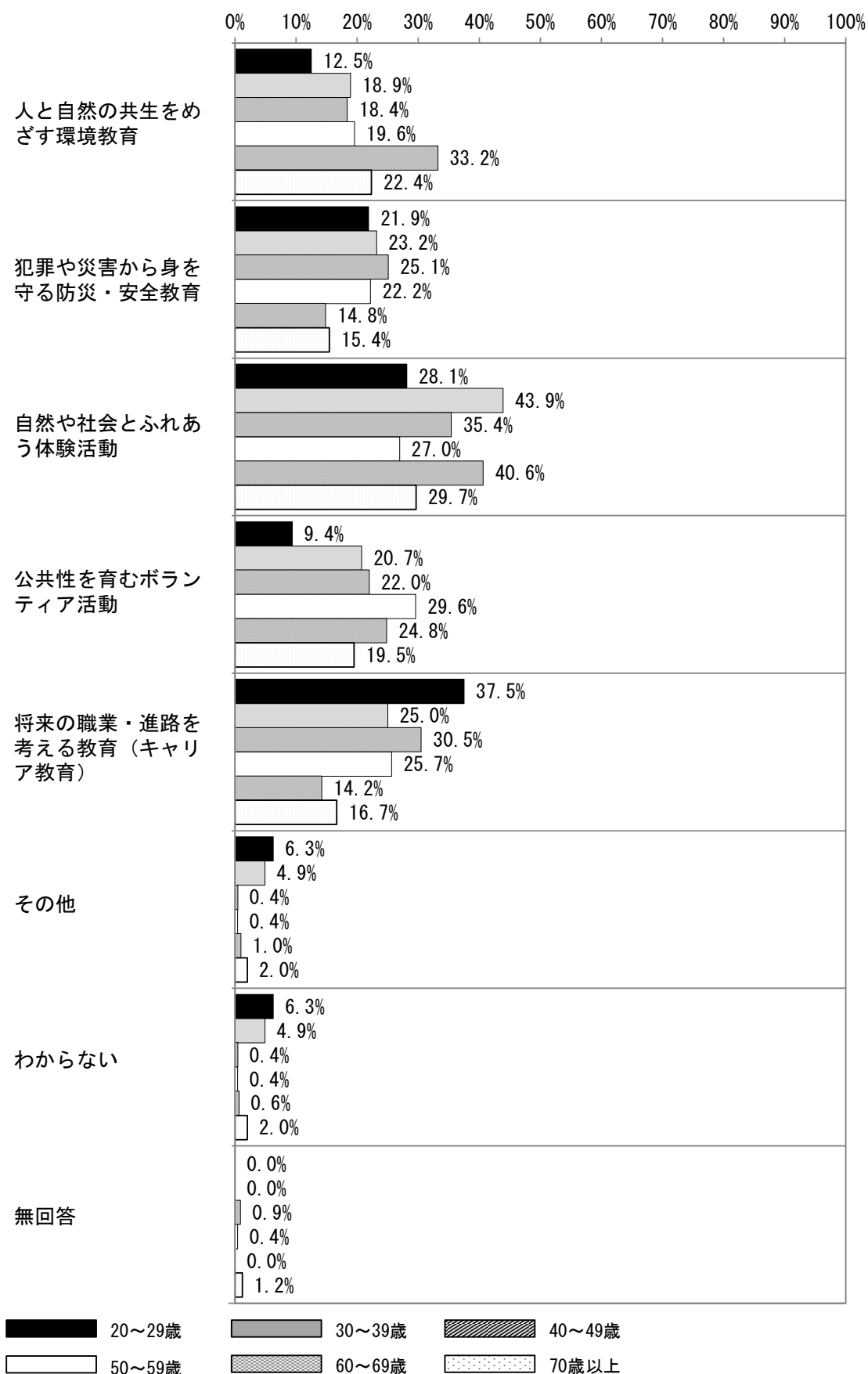


図 I-116 教科やその他の活動の重点 ②



I-2-4 「望ましい教員像」

一般県民による『望ましい教員像』についての回答結果を年代別で比較したところ、回答の割合が高かった項目は、20歳代では「子どもをよく理解し、適切に対処・指導している」(46.9%)、「わかりやすい授業をしている」(40.6%)、「子どもに社会のルールやマナーを身につけさせている」(37.5%)、「信頼され、尊敬される人格をもっている」(37.5%)であり、30歳代では「子どもをよく理解し、適切に対処・指導している」(62.8%)、「子どものやる気を引き出し、意欲を高めている」(57.9%)、「信頼され、尊敬される人格をもっている」(40.2%)、40歳代では「子どもをよく理解し、適切に対処・指導している」(61.0%)、「子どものやる気を引き出し、意欲を高めている」(54.3%)、「信頼され、尊敬される人格をもっている」(44.8%)、50歳代では「子どものやる気を引き出し、意欲を高めている」(59.6%)、「子どもをよく理解し、適切に対処・指導している」(56.5%)、「信頼され、尊敬される人格をもっている」(45.2%)、60歳代では「子どものやる気を引き出し、意欲を高めている」(57.4%)、「子どもをよく理解し、適切に対処・指導している」(50.6%)、「子どもに社会のルールやマナーを身につけさせている」(46.1%)、70歳以上では「子どものやる気を引き出し、意欲を高めている」(55.7%)、「信頼され、尊敬される人格をもっている」(47.2%)、「子どもをよく理解し、適切に対処・指導している」(46.7%)であった。(図I-117, 118 参照)

図 I-117 望ましい教員像 ①

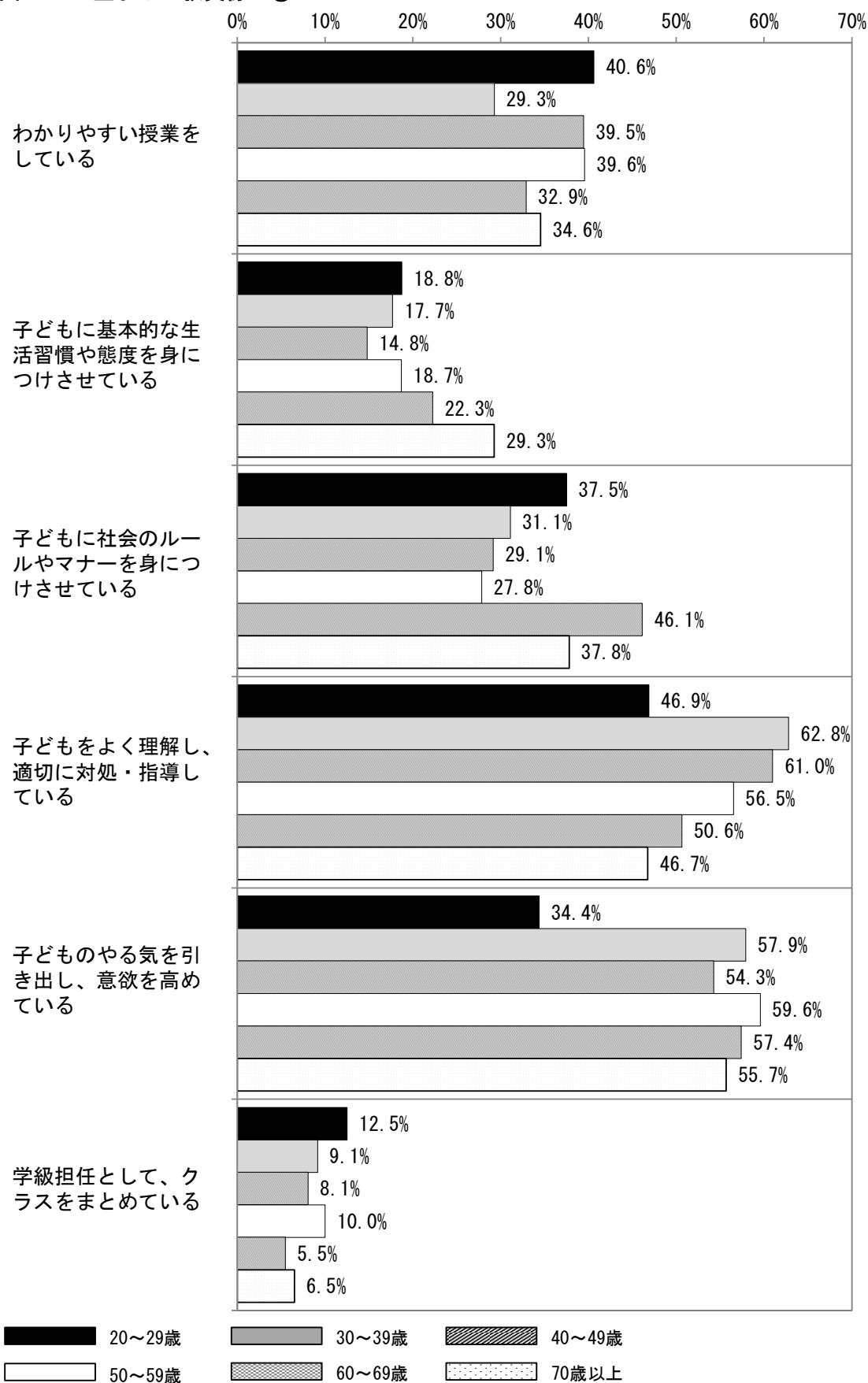
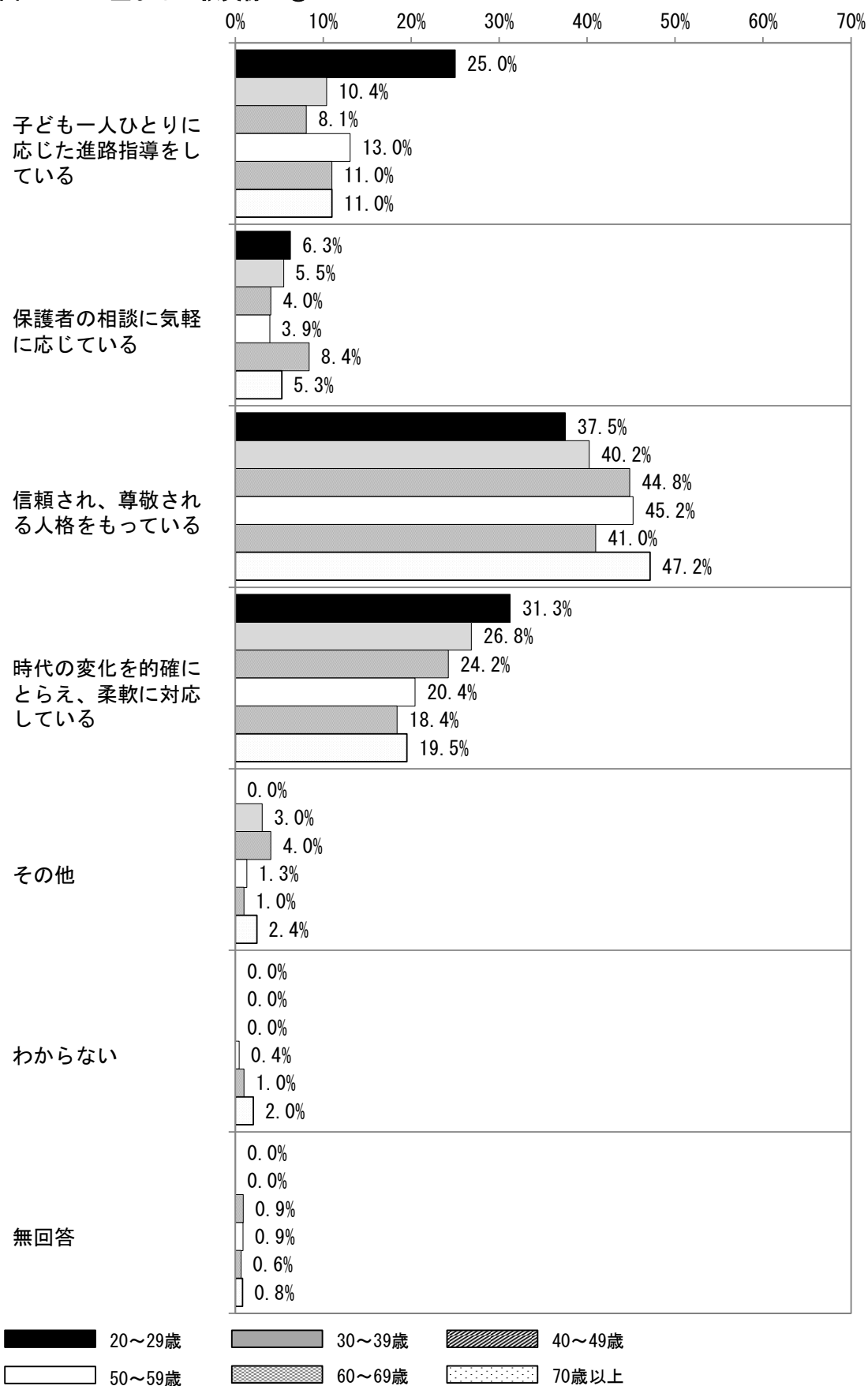


図 I-118 望ましい教員像 ②



I-2-5 「学校、家庭、地域との連携」

一般県民による『学校、家庭、地域との連携』についての回答結果を年代別で比較したところ、回答の割合が高かった項目は、20歳代では「学校、家庭、地域が協力して行事などをつくる」(34.4%)、「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」(31.3%)、「老人ホームや保育所などで体験的な学習の機会をつくる」(28.1%)であり、30歳代では「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」(54.3%)、「学校、家庭、地域が協力して行事などをつくる」(37.2%)、「家庭、地域が学校運営に積極的に関わることのできるしくみをつくる」(26.8%)、40歳代では「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」(50.7%)、「学校、家庭、地域が協力して行事などをつくる」(29.6%)、「老人ホームや保育所などで体験的な学習の機会をつくる」(25.6%)、「家庭、地域が学校運営に積極的に関わることのできるしくみをつくる」(25.6%)、50歳代では「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」(42.2%)、「家庭や地域の人が特技や能力を生かして学校の授業に協力する」(33.9%)、「保護者が学校の教育活動や地域の行事に積極的に参加する」(29.6%)、60歳代では「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」(44.8%)、「家庭や地域の人が特技や能力を生かして学校の授業に協力する」(30.6%)、「保護者が学校の教育活動や地域の行事に積極的に参加する」(29.0%)、70歳以上では「学校の様子や地域の取組みがお互いによくわかるようにする」(49.6%)、「学校、家庭、地域の話し合いの場を増やす」(36.2%)、「学校・家庭と一体となって、地域が教育に当たれるように強化・再生をめざす」(30.5%)であった。(図 I-119, 120 参照)

図 I-119 学校、家庭、地域との連携 ①

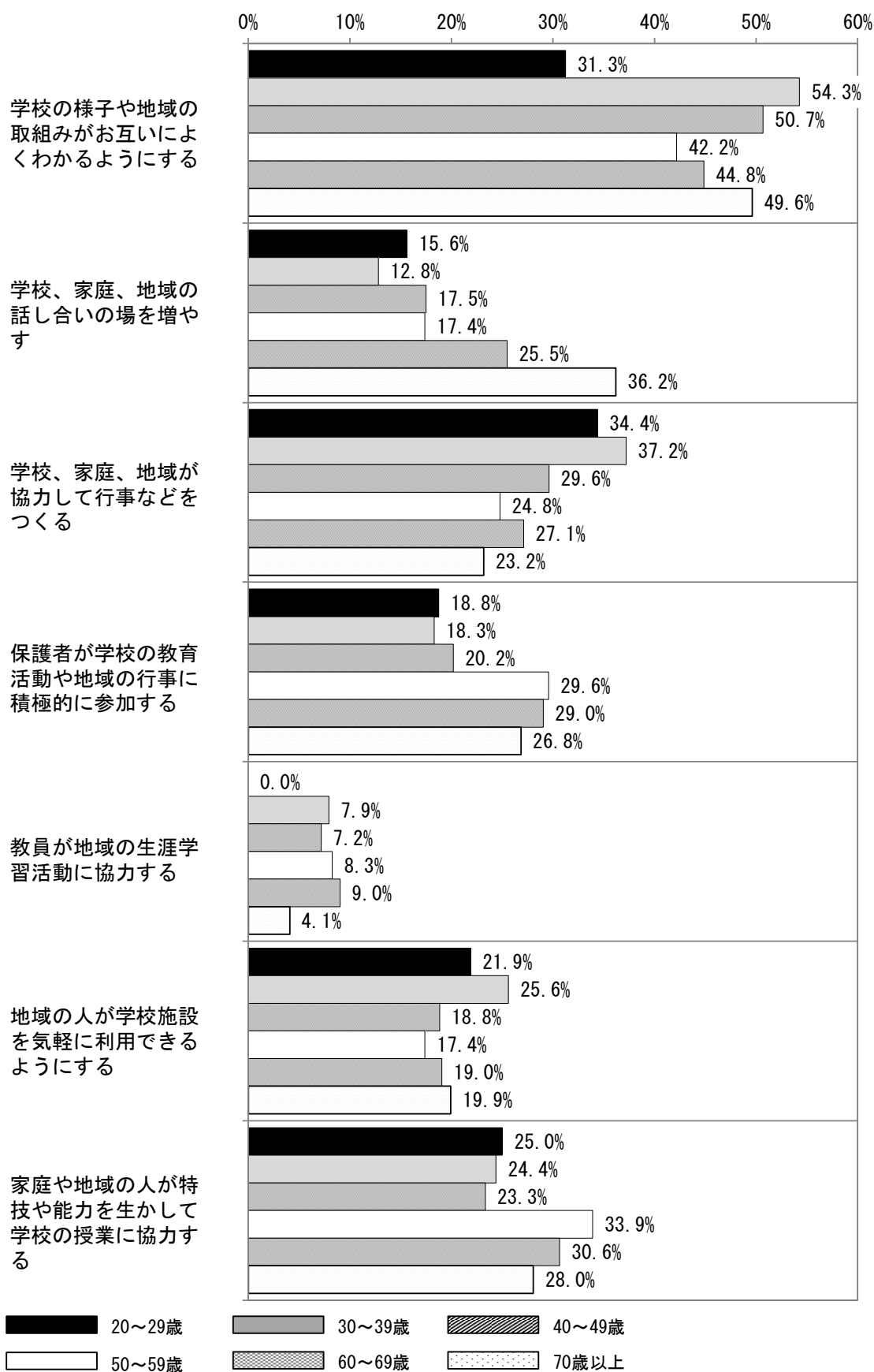
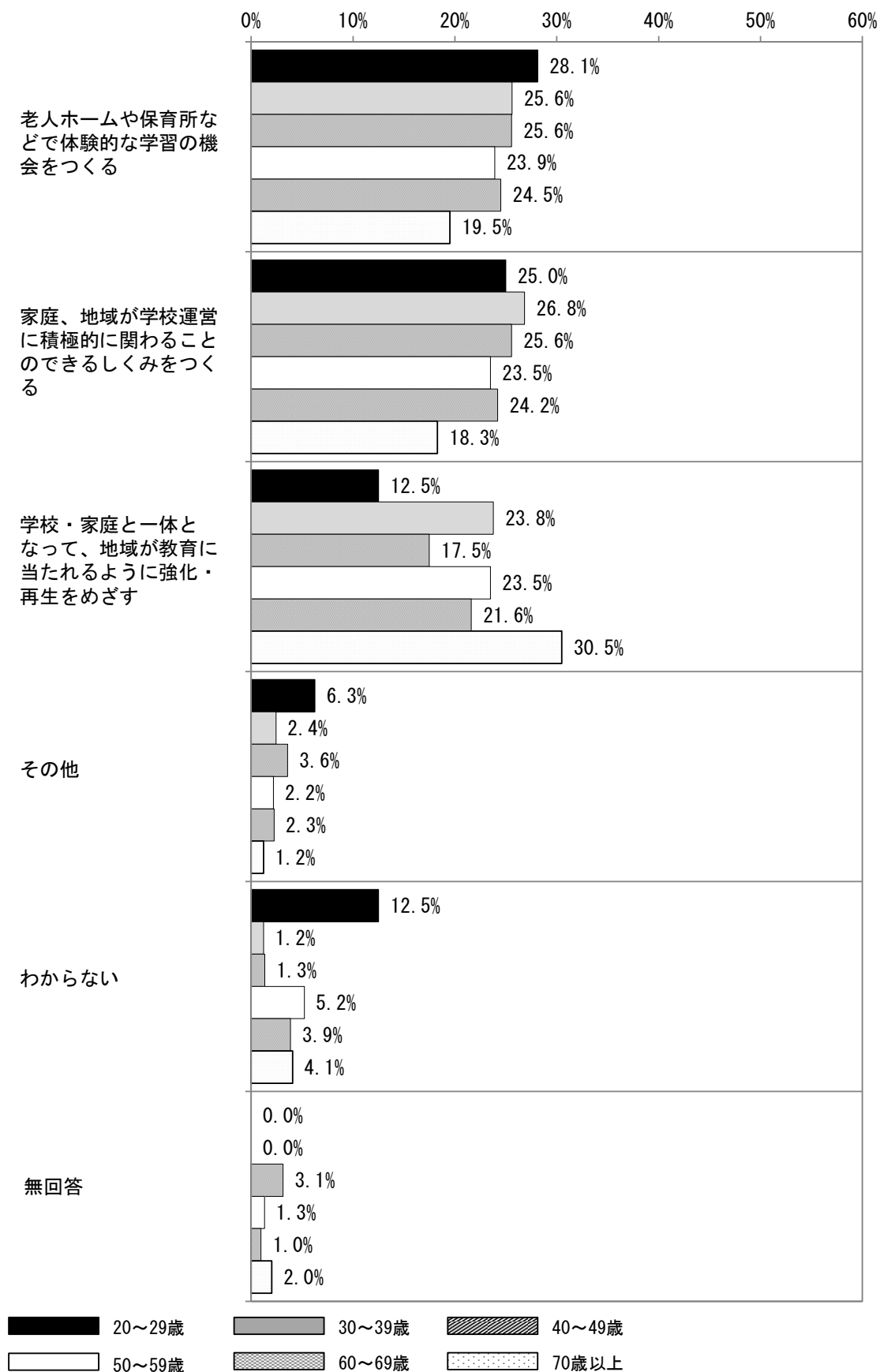


図 I-120 学校、家庭、地域との連携 ②



I-2-6 「地域で活動できること」

一般県民による『地域で活動できること』についての回答結果を年代別で比較したところ、回答の割合が高かった項目は、20歳代では「子どもたちへのあいさつなどの声かけ」(59.4%)、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」(56.3%)、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」(37.5%)であり、30歳代では「子どもたちへのあいさつなどの声かけ」(71.3%)、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」(54.9%)、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」(43.3%)、40歳代では「子どもたちへのあいさつなどの声かけ」(72.2%)、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」(60.5%)、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」(47.1%)、50歳代では「子どもたちへのあいさつなどの声かけ」(65.2%)、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」(53.9%)、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」(43.5%)、60歳代では「子どもたちへのあいさつなどの声かけ」(68.4%)、「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」(66.8%)、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」(51.9%)、70歳以上では「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」(71.5%)、「子どもたちへのあいさつなどの声かけ」(70.3%)、「登下校時などの子どもの安全確保への協力」(57.3%)であった。(図 I-121, 122 参照)

図 I-121 「地域で活動できること」①

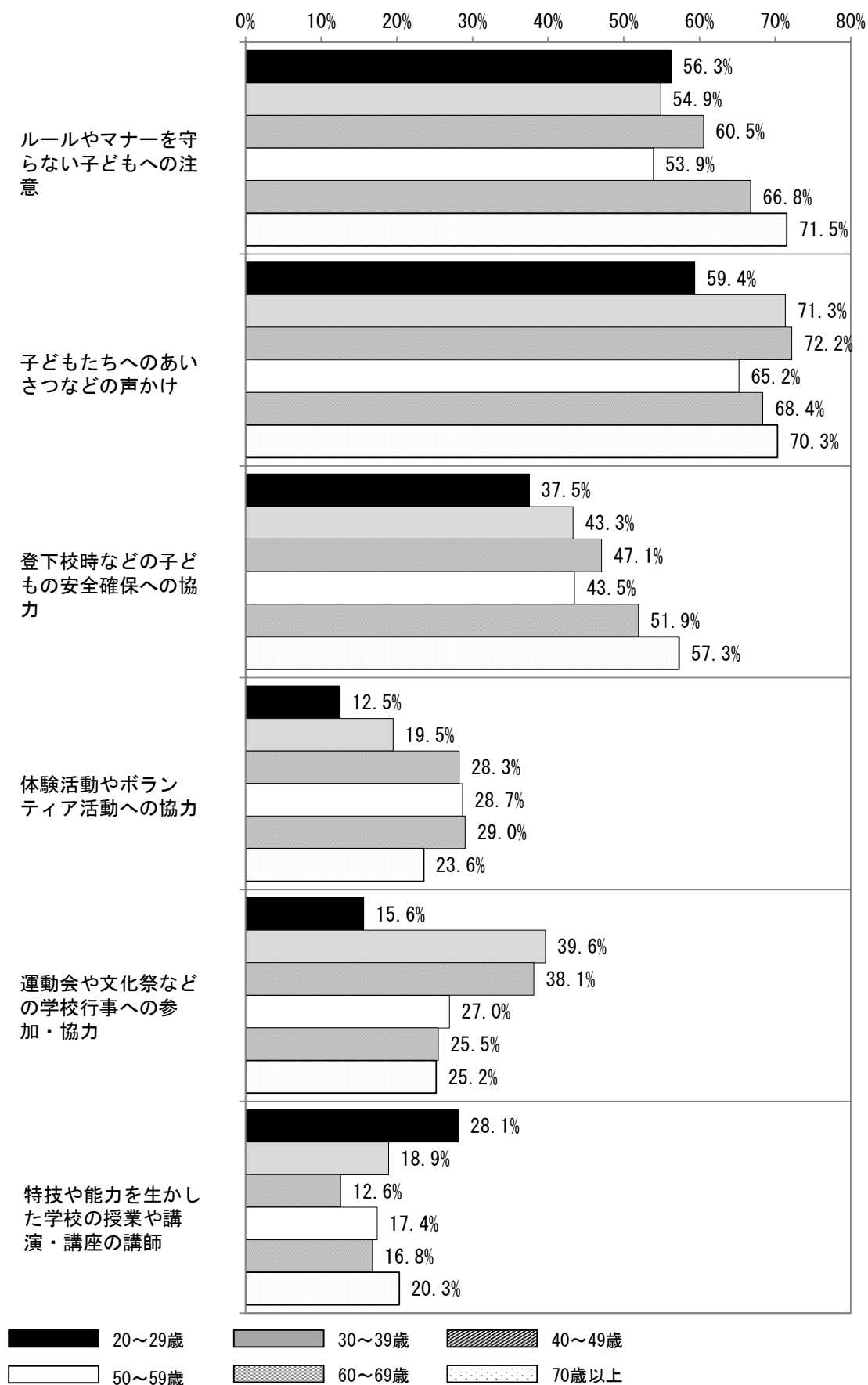
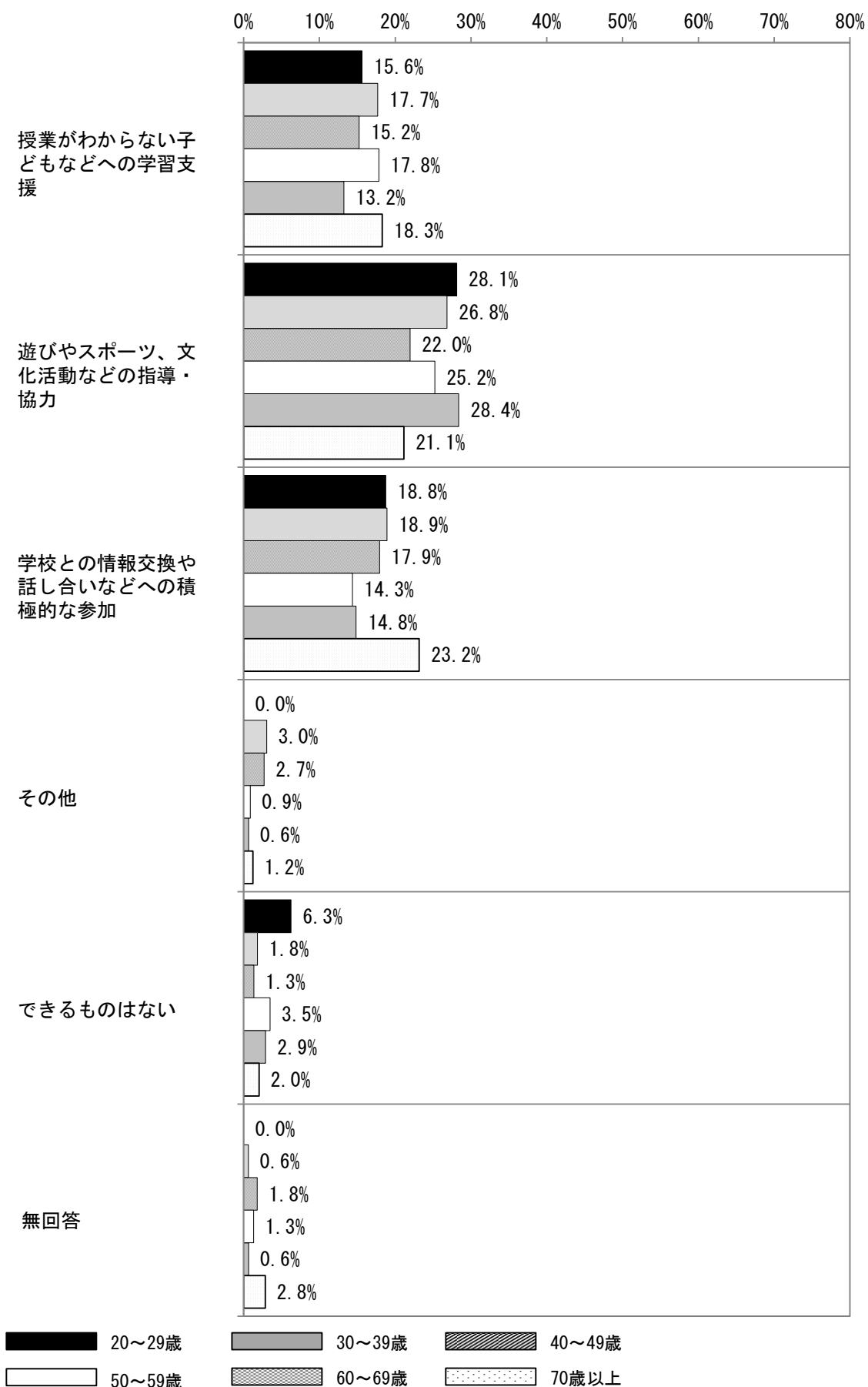


図 I-122 「地域で活動できること」②



I-2-7 「義務教育学校・高等学校のあり方」

一般県民による『義務教育学校・高等学校のあり方』についての回答結果を年代別で比較したところ、「そう思う」と「どちらかというと思う」の回答の割合の合計が高かった項目は、20歳代では「各学校では、外部の意見や評価を生かし、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざすべきだ」(84.4%)、「生徒の個性化・多様化に対応しながらも、誰もが身につけるべき共通的な資質・能力の定着を重視した高等学校づくりをめざすべきだ」(75.0%)、「各学校では、保護者や地域住民が学校運営に参画し、協働して地域とともにある学校づくりをめざすべきだ」(59.4%)であり、30歳代では「各学校では、外部の意見や評価を生かし、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざすべきだ」(78.0%)、「生徒の個性化・多様化に対応しながらも、誰もが身につけるべき共通的な資質・能力の定着を重視した高等学校づくりをめざすべきだ」(73.2%)、「各学校では、保護者や地域住民が学校運営に参画し、協働して地域とともにある学校づくりをめざすべきだ」(61.0%)であった。

40歳代では「生徒の個性化・多様化に対応しながらも、誰もが身につけるべき共通的な資質・能力の定着を重視した高等学校づくりをめざすべきだ」(72.7%)、「各学校では、外部の意見や評価を生かし、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざすべきだ」(71.8%)、「各学校では、保護者や地域住民が学校運営に参画し、協働して地域とともにある学校づくりをめざすべきだ」(51.2%)であり、50歳代では「生徒の個性化・多様化に対応しながらも、誰もが身につけるべき共通的な資質・能力の定着を重視した高等学校づくりをめざすべきだ」(75.2%)、「各学校では、外部の意見や評価を生かし、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざすべきだ」(61.3%)、「各学校では、保護者や地域住民が学校運営に参画し、協働して地域とともにある学校づくりをめざすべきだ」(51.3%)であった。

60歳代では「生徒の個性化・多様化に対応しながらも、誰もが身につけるべき共通的な資質・能力の定着を重視した高等学校づくりをめざすべきだ」(77.1%)、「各学校では、外部の意見や評価を生かし、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざすべきだ」(69.1%)、「小学校や中学校の再編統合によって1校あたりの児童・生徒数を確保し、子ども同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ」(55.4%)であり、70歳以上では「生徒の個性化・多様化に対応しながらも、誰もが身につけるべき共通的な資質・能力の定着を重視した高等学校づくりをめざすべきだ」(78.0%)、「各学校では、外部の意見や評価を生かし、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざすべきだ」(70.3%)、「小学校や中学校の再編統合によって1校あたりの児童・生徒数を確保し、子ども同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ」(62.2%)であった。(図I-123～128参照)

図 I-123 小学校や中学校の再編統合によって1校あたりの児童・生徒数を確保し、子ども同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ

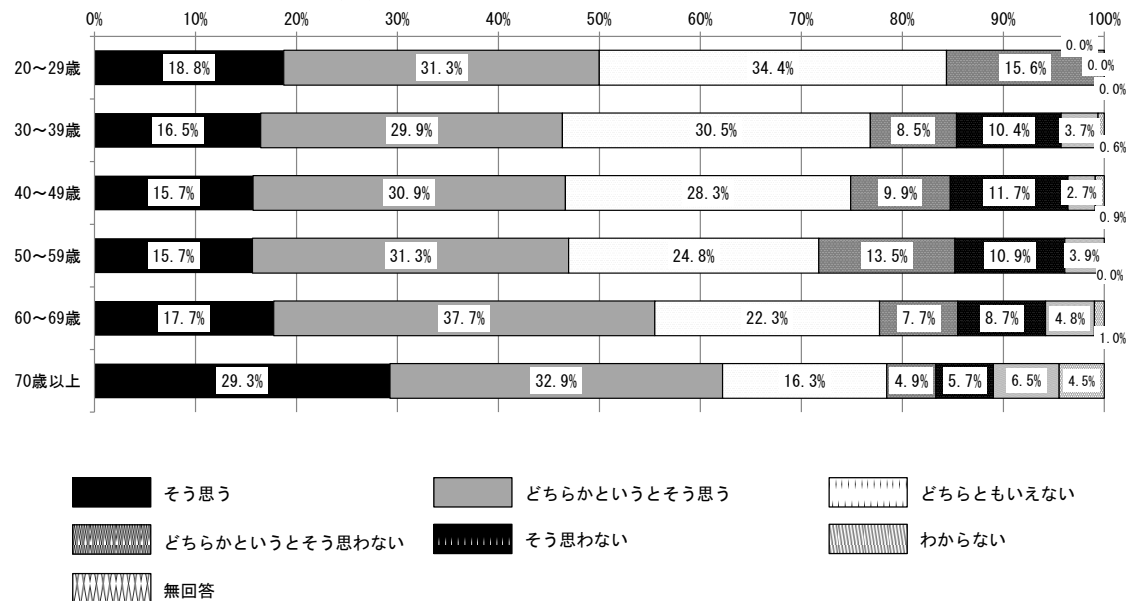


図 I-124 義務教育9年間を一元的に指導できる小中一貫教育校の設置・拡充をめざすべきだ

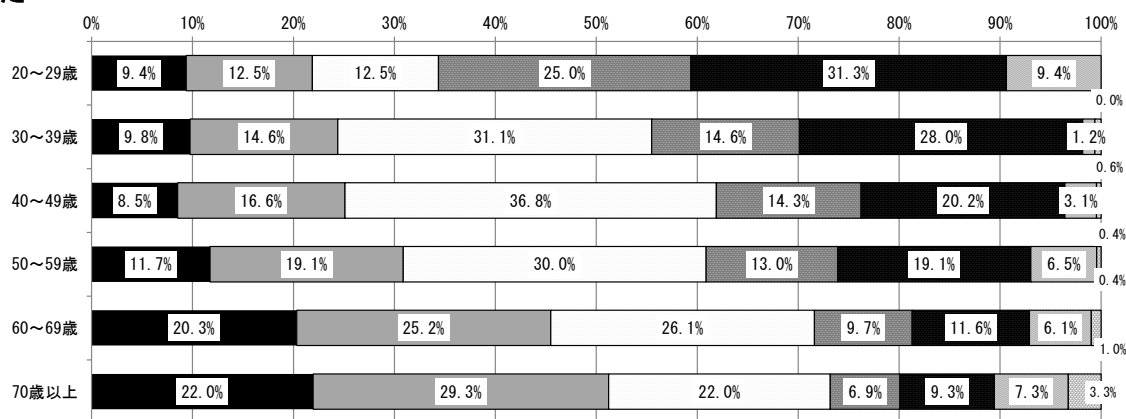


図 I-125 高等学校の新たな再編統合によって1校あたりの生徒数を確保し、生徒同士の学び合いや行事等の充実をめざすべきだ

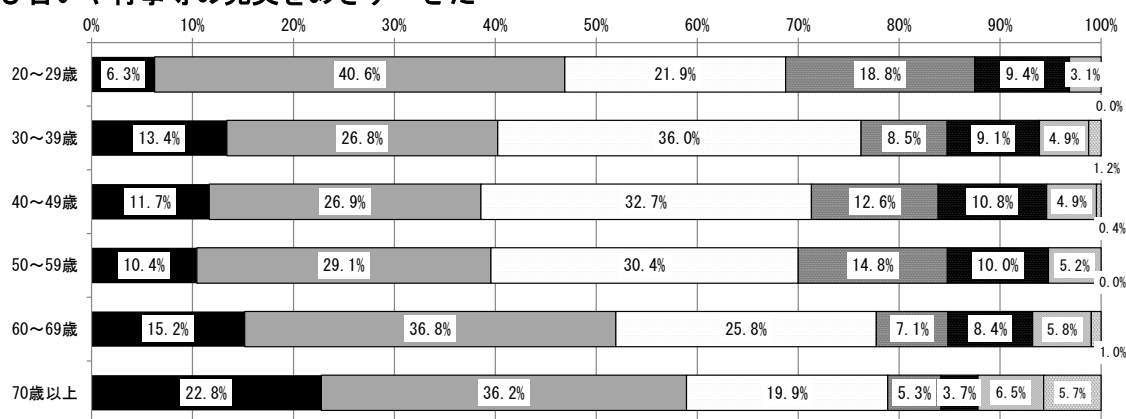


図 I-126 生徒の個性化・多様化に対応しながらも、誰もが身につけるべき共通的な資質・能力の定着を重視した高等学校づくりをめざすべきだ

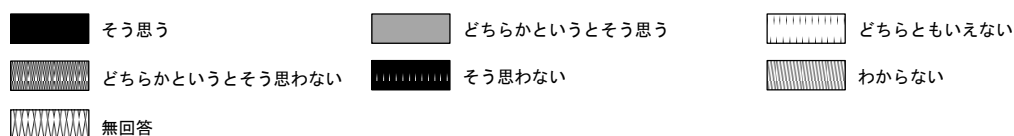
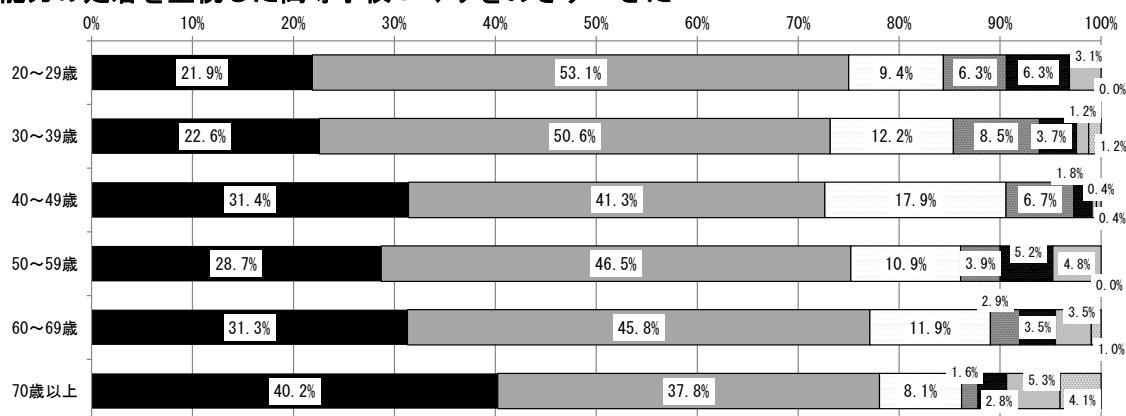


図 I-127 各学校では、外部の意見や評価を生かし、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざすべきだ

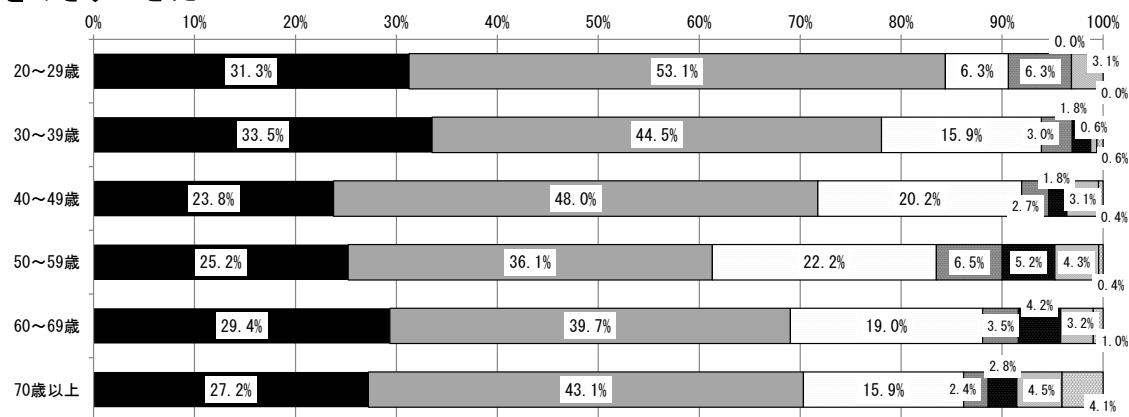
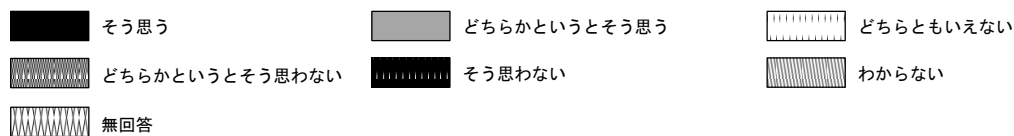
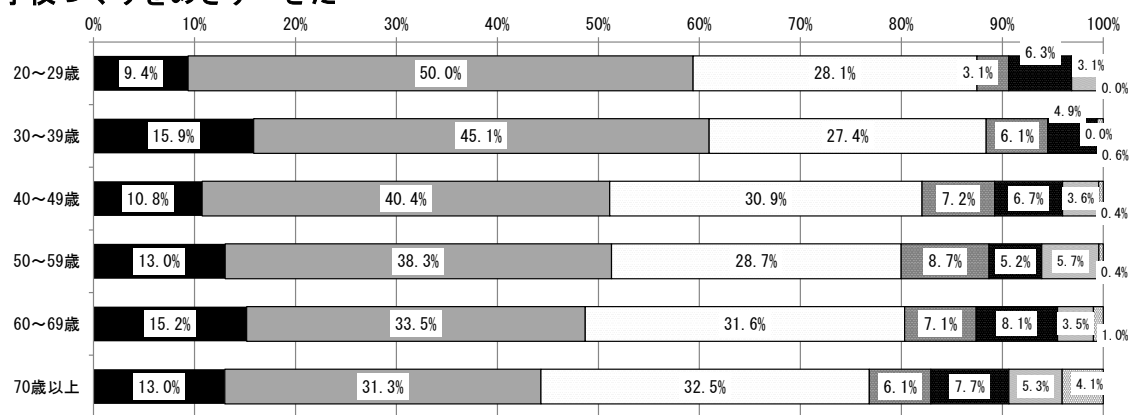


図 I-128 各学校では、保護者や地域住民が学校運営に参画し、協働して地域とともにある学校づくりをめざすべきだ



I-2-8 「県立（公立）高校と私立高校」

一般県民による『県立（公立）高校と私立高校』についての回答結果を年代別で比較したところ、「県立（公立）の方がよい」と回答した割合が高かった項目は、20歳代では「学校の特色や個性」（21.9%）、「生徒指導」（21.9%）、「学校の雰囲気」（21.9%）であり、30歳代では「学校の雰囲気」（12.8%）、「学校の行事・部活動」（11.6%）、「生徒指導」（11.6%）、40歳代では「就職」（9.0%）、「学校の行事・部活動」（8.5%）、「学校の雰囲気」（8.1%）、50歳代では「就職」（11.3%）、「学校の行事・部活動」（8.3%）、「学校の雰囲気」（5.7%）、60歳代では「就職」（11.6%）、「生徒指導」（11.3%）、「学校の行事・部活動」（8.7%）、「大学などへの進学」（8.7%）、70歳以上では「就職」（17.9%）、「大学などへの進学」（15.0%）、「学校の行事・部活動」（13.8%）であった。

一方、「私立の方がよい」と回答した割合が高かった項目は、20歳代では「施設や設備」（75.0%）、「学校の特色や個性」（50.0%）、「大学などへの進学」（50.0%）であり、30歳代では「施設や設備」（82.3%）、「学校の特色や個性」（58.5%）、「大学などへの進学」（50.0%）、40歳代では「施設や設備」（84.8%）、「学校の特色や個性」（67.3%）、「大学などへの進学」（51.1%）、50歳代では「施設や設備」（82.6%）、「学校の特色や個性」（69.1%）、「生徒指導」（51.7%）、60歳代では「施設や設備」（65.2%）、「学校の特色や個性」（59.0%）、「大学などへの進学」（47.7%）、70歳以上では「学校の特色や個性」（61.8%）、「施設や設備」（56.1%）、「大学などへの進学」（40.7%）であった。（図I-129～138参照）

図 I-129 学校の特色や個性

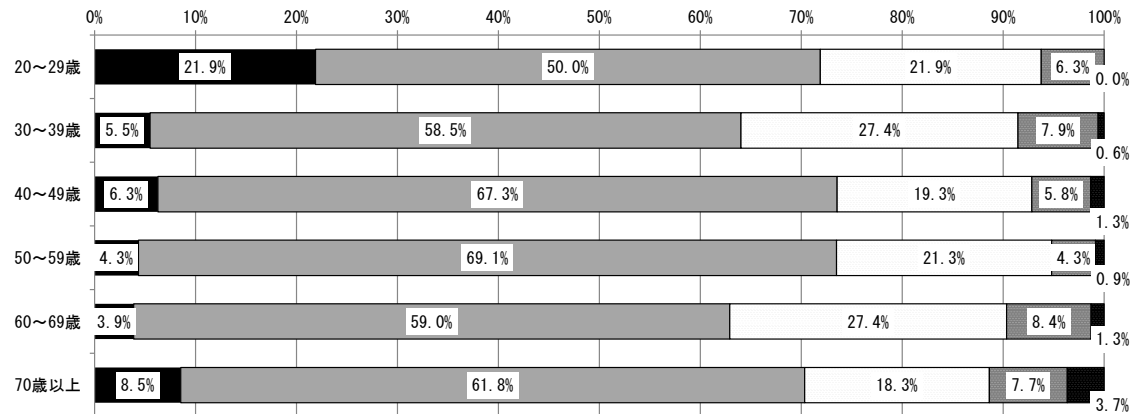
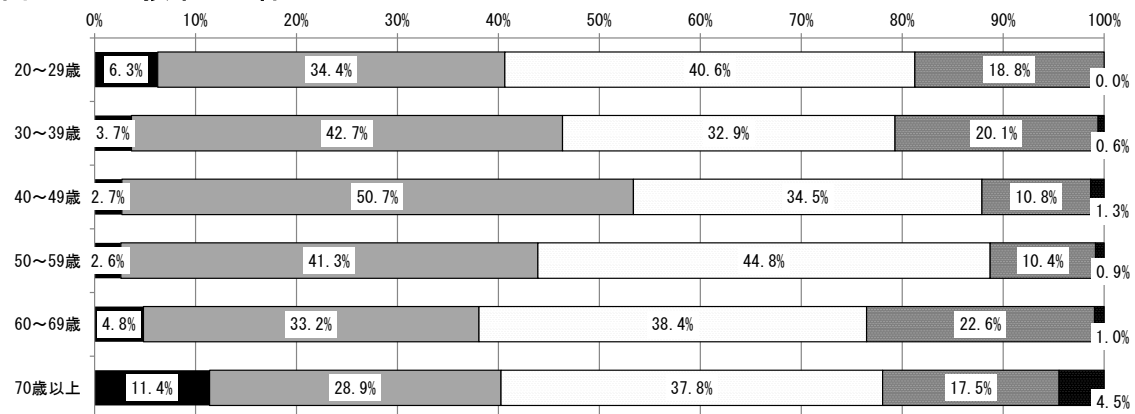


図 I-130 授業の内容



県立（公立）の方がよい
 私立の方がよい
 どちらともいえない

わからない
 無回答

図 I-131 学校の行事・部活動

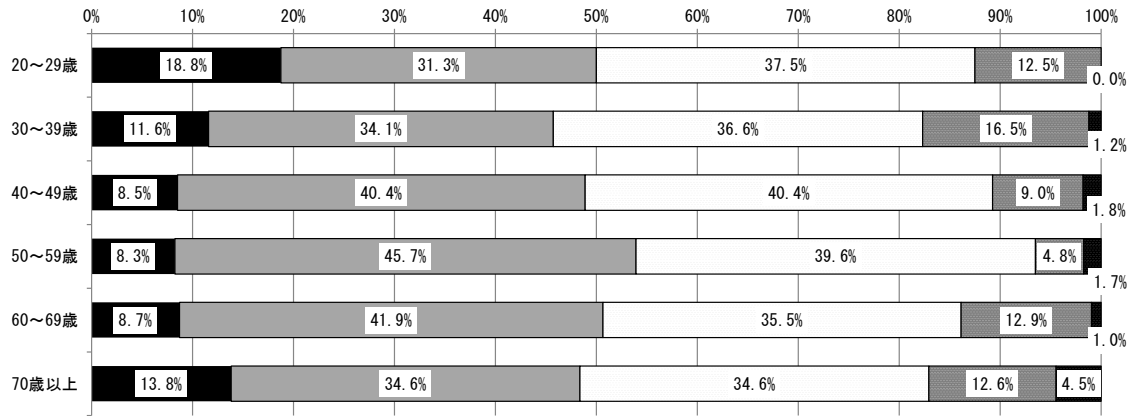


図 I-132 大学などへの進学

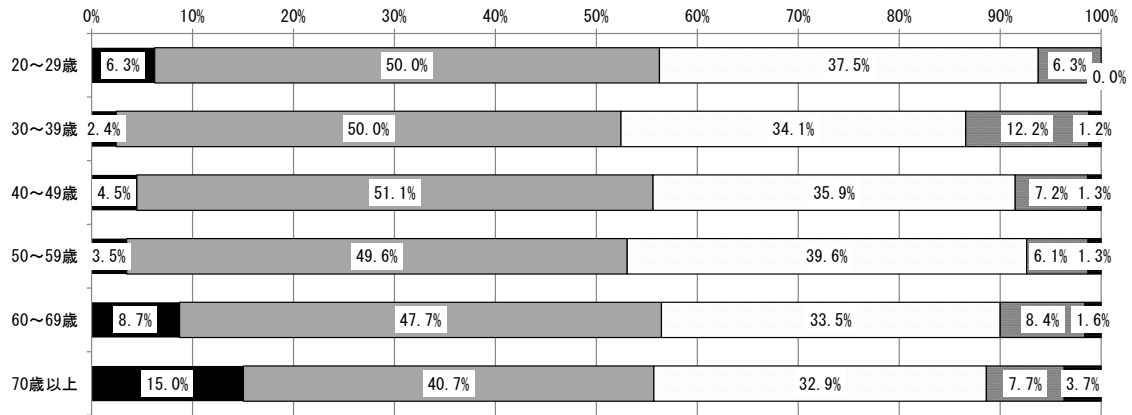
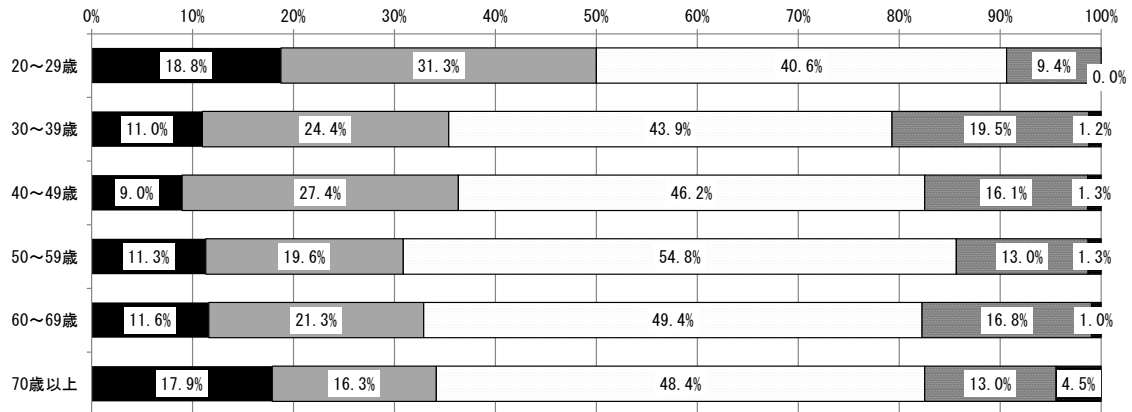


図 I-133 就職



県立(公立)の方がよい
 私立の方がよい
 どちらともいえない

わからない
 無回答

図 I-134 生徒指導

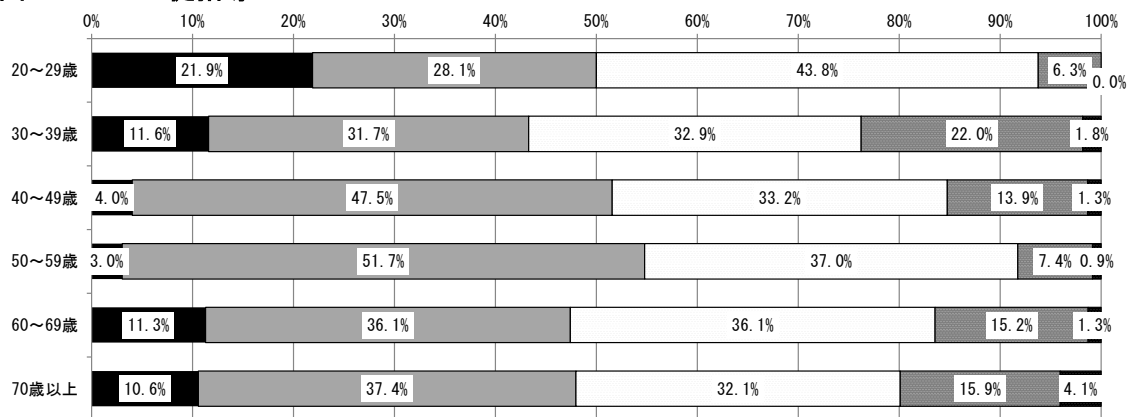


図 I-135 施設や設備

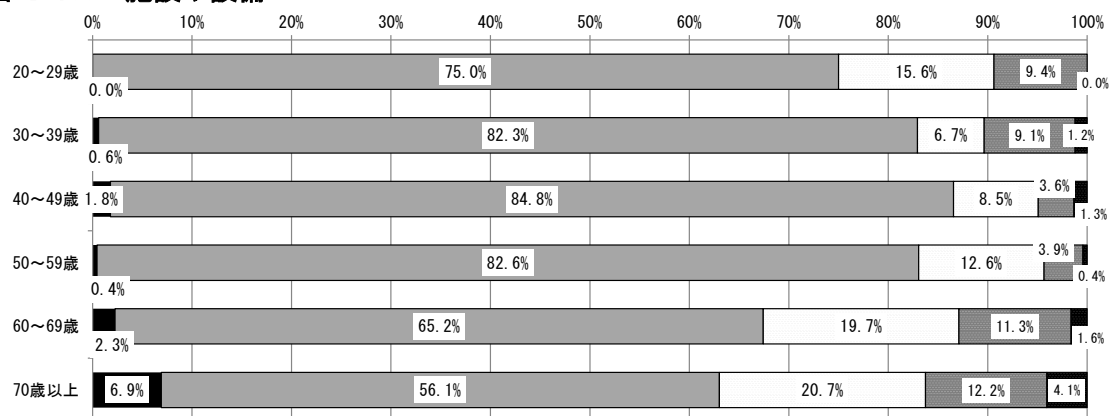
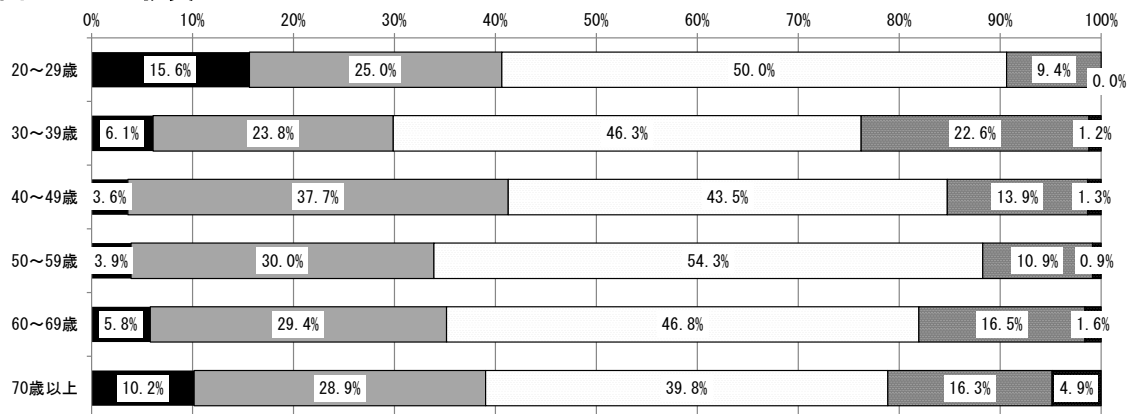


図 I-136 教員



県立（公立）の方がよい
 私立の方がよい
 どちらともいえない
 わからない
 無回答

図 I-137 学校の雰囲気

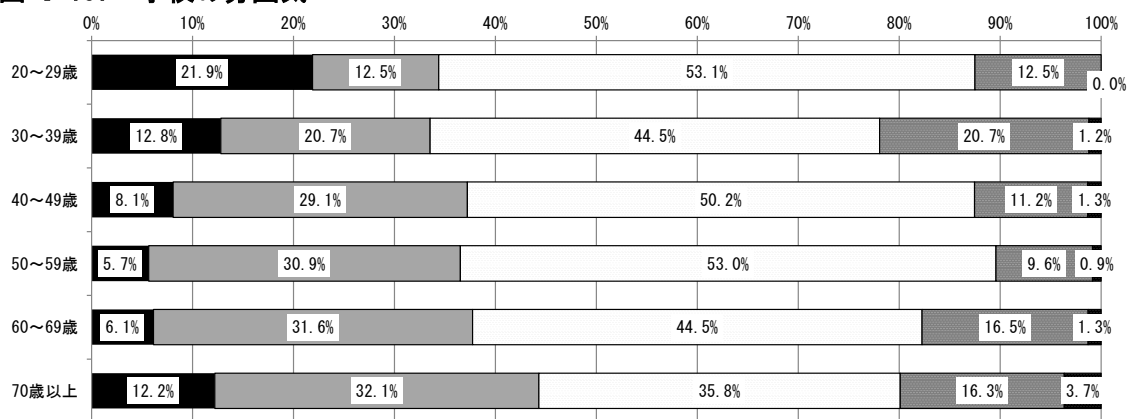
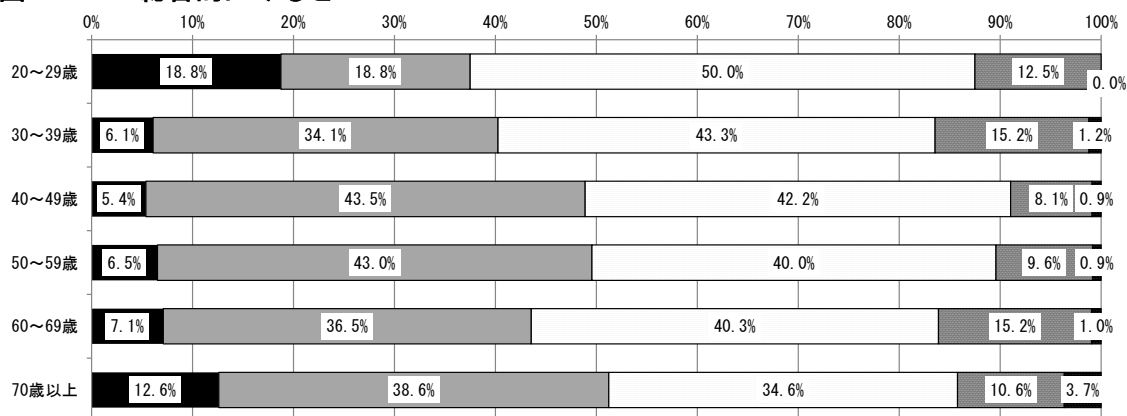


図 I-138 総合的にみると



県立(公立)の方がよい
 私立の方がよい
 どちらともいえない
 わからない
 無回答

I-2-9 「生涯にわたる自分づくりの実践」

一般県民による『生涯にわたる自分づくりの実践』についての回答結果を年代別で比較したところ、回答の割合が高かった項目は、20歳代では「大学や民間企業等における学び直しの機会の充実」(62.5%)、「地域の人々が互いに学び合えるコミュニティの充実」(43.8%)、「自然・歴史・風土・文化芸術・産業・観光などのかながわの魅力を生かした学びの場の充実」(37.5%)であり、30歳代では「地域の人々が互いに学び合えるコミュニティの充実」(46.3%)、「自然・歴史・風土・文化芸術・産業・観光などのかながわの魅力を生かした学びの場の充実」(42.1%)、「大学や民間企業等における学び直しの機会の充実」(37.8%)であった。

40歳代では「大学や民間企業等における学び直しの機会の充実」(48.4%)、「地域の人々が互いに学び合えるコミュニティの充実」(44.8%)、「自然・歴史・風土・文化芸術・産業・観光などのかながわの魅力を生かした学びの場の充実」(41.3%)であり、50歳代では「自然・歴史・風土・文化芸術・産業・観光などのかながわの魅力を生かした学びの場の充実」(51.7%)、「地域の人々が互いに学び合えるコミュニティの充実」(41.3%)、「大学や民間企業等における学び直しの機会の充実」(40.0%)であった。

60歳代では「自然・歴史・風土・文化芸術・産業・観光などのかながわの魅力を生かした学びの場の充実」(62.6%)、「地域の人々が互いに学び合えるコミュニティの充実」(55.2%)、「大学や民間企業等における学び直しの機会の充実」(33.2%)であり、70歳以上では「自然・歴史・風土・文化芸術・産業・観光などのかながわの魅力を生かした学びの場の充実」(61.4%)、「地域の人々が互いに学び合えるコミュニティの充実」(52.8%)、「様々な主体が一体となって地域の防災を考え、行動につなげる場の充実」(30.9%)であった。(図 I-139 参照)

図 I-139 生涯にわたる自分づくりの実践

